

## トップ・デザイナーのサリー

特別展「インド サリーの世界」出展作品(標本番号H0228432) デザイン/リトゥ・クマール 幅116.5cm 長さ532cm

杉本 良男

先端人類科学研究部

リトゥ・クマールは、一九六〇年代からインド・ファッション界をリードしてきたデザイナーで、その名声は世界的に広まっている。最近のインドの週刊誌『アウトLOOK』の特集号で、現代インドのナンバーワン・デザイナーに選ばれている。一九八〇年代末から、インド出身のデザイナーが世界に次々と進出しはじめたが、その先駆者として、いまも第一線で活躍しているトップ・デザイナーである。

リトゥ・クマールは、インドの

なモチーフを重視し、とくにマハラジャ家のファッションやインド西部の民族衣装からインスピレーションを得て、エスニック趣味の現代ファッションを生みだしている。六〇年代から、ザルドジとよばれる金糸刺繍を取り入れたサリーや、ガーグラー、レーンガーとよばれるスカートなどをつくりはじめた。その後、東西の趣味を融合したいわゆるインド・ウエスタン風のファッションを世におくりだし、次世代のデザイナーたちに決定

的な影響を与えてきた。

ここにとりあげたサリーも、薄手のクレープ地に銀糸刺繍などを配した豪華なものである。写真はその一部をクローズアップしたものだ。インドからヨーロッパにわたって世界に広まったベイズリー柄が印象的である。ベイズリーは、インドのカシミヤ・シールが一九世紀なかばにヨーロッパで注目され、イギリスのベイズリー村で模造品がつくられたことで世界に広まったといういきさつがある。

